



医療法人 康仁会

西の京病院

メディカル

最前線

vol.91

心
最高の
設備 技術

最前線医療を行う

リウマチ科

関節リウマチ治療法が劇的に進歩！
早期発見・早期治療で普通の生活も

手がこわばる、関節が腫れて痛いなどの症状が多い関節リウマチは、自己免疫疾患の一つで、関節の破壊・変形から機能障害に至る病気。近年治療薬の開発が進み、新薬の成果が目覚ましい。だが、患者の**高齢化に伴う合併症への副作用などを鑑みた治療**が重要になってきた。そうした患者の個別対応で成果を上げている西の京病院リウマチ科部長の城崎和久医師に話を伺った。

「診断基準にピッタリとはまらない患者さんもおられます。そういった**グレーゾーンの患者さん**や、**他院で診断されなかった方**もご相談ください。真摯に向き合い最善の治療を心がけています」

リウマチ科部長
城崎 和久 医師
KIZAKI KAZUHISA

車通勤から電車+徒歩通勤に。外食を内食に変えて、料理などの家事も分担しています♪

先生の健康法

チェックリスト

起床から30分ぐらい続いて
日中や夜は落ち着くのが特徴

一つでもあったら
専門医に受診を！



【原因】原因は、**自己免疫異常**(疾患により自分の細胞や組織を攻撃するため。未確定だが遺伝子の異常や感染した微生物の影響ではないかというところ、喫煙と歯周病は**リウマチ発症のスイッチ**の一つにあたると思われる。

【症状】両手のこわばり、手指や足趾など小さな関節の腫れや痛み、時に膝や股関節などの大きな関節にも出現、微熱や倦怠感、息切れなどを伴うことも。指が曲がったり反ったりと変形、**日常生活に支障**をきたし、美容面での悩みも生じる。

スワンネック変形



関節リウマチは、主に手足の関節で起るが、肺や血液などの内臓障害を起こすこともあるという。日本での患者数は、30歳以上の人口の1%(約70万人)で、60歳代の発病が多く**高齢化**している。

同院では80歳以上の患者が急増中！

関節リウマチの症状と原因

診断

診断は、関節とその周辺症状を詳細に問診・触診、X線撮影、血液検査、MRI等の画像検査などで総合判断。

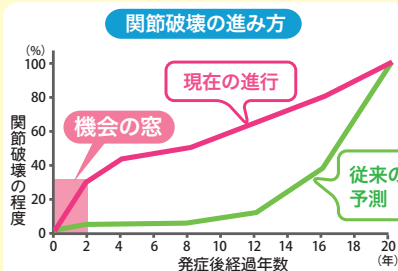
関節破壊は発症後早期に進行！

かつてはゆっくり進行すると考えられていた関節リウマチだが、**早期から急速に(発症から1〜2年)関節破壊が起る**ことが判明。**早期発見・早期治療が重要だ。**



詳しくはHP「リウマチ科」

治療タイミング“**機会の窓**、を逃さない**早期発見・早期治療**で”
QOL(生活の質)を維持！



専門医と認定看護師を中心にチームが連携プレーで患者のサポート！

リハビリテーションセンターでは、日常生活の中でのリハビリ(自主トレ)法を指導！



副院長 兼/整形外科部長
兼/リハビリテーションセンター長
内藤 浩平 医師 NAITO KOHEI

リウマチ科 (事前予約制)
患者支援センター TEL.0742-35-2219

リウマチ教室 11月に開催(予約不要・参加無料)

治療【寛解】

症状の緩和とコントロールを目指す

◆基礎療法：健康維持と関節に負担をかけない日常生活。骨や筋肉の強化につながる**食事や適度な運動療法・温熱療法**など。

骨と筋肉は何歳からでも鍛えられる

◆薬物療法：メトトレキサートやJAK阻害薬を含めた**抗リウマチ薬**(飲み薬)、また**生物学的製剤**(注射薬)により治療方法が劇的に進歩しており、**関節破壊の進行や変形を止める**ことが可能となってきた。

ステロイドの適量・初期投与での効果も大

◆手術療法：関節破壊が進み、痛みが続く場合は、滑膜切除術や関節形成術、関節固定術、人工関節置換術(美容目的を含む)などがある。

装具療法